

我が家でできる防災対策(その①)

◆安全で快適なみちに◆

道路は災害時には人々の避難や、救急車や消防車など緊急車両の走行などで利用されます。しかし、大地震により家やブロック塀が道路へ倒壊し、通行することができない場合があります。

道路に面した塀を生け垣にすることで、災害時の倒壊を防ぎ、延焼をくいとめることができます。また、家の周りの緑が増えて環境も良くなります。

生け垣にする場合には、区から助成が受けられる場合があります（担当：環境保全課、電話 5744-1365）。

みなさんの家やその周りの道路の状況はどうなっていますか。身の回りを確認することが災害時の安全性につながります。

◆雨水を利用してみませんか？◆

大地震の際には電気・ガス・水道などのライフラインが供給停止になると言われています。そのような時に、雨水をあらかじめ貯めておくと水は貴重な資源になります。住民による火災の初期消火に活躍したり、煮沸することで飲料水となったりすることも期待されています。雨水の備蓄タンクは人々の防災意識の中心的な存在になります。

また、災害時の利用だけでなく、日頃の水やりや打ち水にも使えるなどまちのうるおいを与えてくれる役割もあります。今回の先進地視察会で訪問した「路地尊」は雨水の備蓄タンクを地下に埋設した代表例です。さらに、右写真のようなタンクを設置している住宅も見かけました。

雨水の備蓄タンクは、公園の地下などにある防火水槽のような大型のものから、各家庭にも設置できる小型のものまで多種多様です。みなさんも雨水の活用を考えてみませんか。



編集後記

当会の活動も4年が過ぎようとしています。私たちも、まだまだ勉強中ではあります。この4年間で学んだことを「まちづくりニース」やイベントなどを通じて、地区の皆さんに伝えていきたいと考えています。これからも多くのことを学び、地区的皆さんとともに「災害に強いまちづくり」を目指していきます。お頼りください。



大森中・蒲田・糀谷地区 防災まちづくりニュース No12

平成16年3月

大森中地区 防災生活圈促進事業

編集：大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりの会「さんかく隊」
発行：大田区 まちづくり推進部 まちづくり課 TEL 5744-1338

防災まちづくりフェアを開催しました

昨年11月29日（日）に、当会主催による4回目の「大森中・蒲田・糀谷地区防災まちづくりフェア」を開催しました。当日は、雨の寒い日となりましたが、昨年同様200名以上の方に参りました。会の活動報告、災害シミュレーションとまちづくりに関する講演、備蓄食品クッキングなどを行うことができました。

◆会場の様子



→児童館等を通じて地域の子どもたち約40人から防災まちづくりポスターが寄せられました。子どもたちの防災意識も高まってきたようです。



→最新の研究と映像技術による講演はとてもわかりやすく、全員が防災まちづくりの大切さを学ぶことができました。



↑備蓄食品クッキングは、賞味期限が近づいた非常食のおいしい食べ方として、今年も大盛況でした。

この他にも町内会やPTAの皆さんの協力で炊き出しやお菓子をいただきました。



↑蒲田消防少年団の皆さんに非常時のロープや三角巾の使い方、119番通報の方法を教えてもらいました。

ごあいさつ 副会長 滝田勝廣

この時期は一年の締めくくりでもあり、新たな目標に向かう時期でもあります。今回の防災まちづくりフェア多くの参加者で大成功でした。これも地域の皆さんの防災に対する意識の現れだと感謝しております。

また、会員でも毎年クウンウォッチングや防災先进单位への訪問を行っており、自分たちでまちを体験することを行っています。今年度は、会のマークとのぼりをつくりました。一つ一つではあります、できるところから取り組んでいます。

これからも皆さんと一緒に災害に強い街へ進めていきたいと考えていますので引き続きご協力・ご支援をお願いいたします。